

---

# 家具屋姫

ekaki

---

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

家具屋姫

### 【Nコード】

N3621B

### 【作者名】

ekaki

### 【あらすじ】

とある『あんていく』の椅子を見た、同じ『あんていく』人形の恋のお話。

## （前書き）

とても久々の投稿なので、文が変な部分もあるかもしれません。

俺は椅子。

造られたのは、もう100・・・いや、150年位前になるかな。

人間の世界では、俺みたいに古くて質の良い物を、なんだっけ、『あんていーく』っつーんだっけ？そんな感じで呼ぶらしいな。

まあ実際、俺は150年を生きても、まだ現役だからな。

まあ、んな事はどうでもいいんだが。

俺が生きた150年の間に、何回も主人が変わった。

年老いたじいさんが主人の時もあったし、可愛いお嬢さんが主人の時もあった。

・・・懐かしいな・・・。

今は、とある小さな家具屋にいる。

まわりにいるのはみんな、俺と同じ位生きた奴ら・・・なんだ、『あんていーく』？って奴らばかりだ。

まあ、俺程ではないが。

俺がここに來た時から・・・3年前から、主人は変わってなくて、じいさんがいつも店番をやってる。

このじいさんはなかなか優しく、毎日毎日、店の開店前と閉店後に、丁寧に体を拭いてくれる・・・って、こんな話はどうでもいいか。

つい昨日まで、俺の上には女の子がいた。

いや、女の子といっても、人間じゃない。

只の・・・って言っちゃ悪いが、まあ、人形だ。

なんで家具屋にあんな奴が居たか分からないが、こいつも『あんて

いーく』だった。

しかも、ここで唯一俺より古い。

そんな古い人形だとは、とても思えないくらいに綺麗で、清楚で、可憐で・・・って、まあ、兎に角綺麗な奴だった。

あいつは、時たまここにくる、ある一人の青年に恋をしていた。

その青年は何故か、決まって毎週水曜日に来て、店内を掃除したり、家具達を拭いたりして、帰っていく。

そんな青年に、あいつは恋をしていた。

毎日のように、あの青年に関する事で、俺に話しかけてきた。

『あの人はサムって言うのよ。』

『あの人、この前本棚の前で雑巾踏んで転びそうになったのよ』

『私、あの人の事が好きなの。愛してるの。』

・・・で、あの青年・・・サム、か、サムが来ている時は、もう大変だった。

『サム、愛してるの。』

『サム、私を買って。』

『サム、お願い!』

『サム、貴方とずっと居たいの!』

『サム!サム!』

うるさいくらい、サムに愛の言葉を言い続けた。

だが、人間には俺達の言葉は分からない。

届くはずもなかった。

・・・そんな日々が続いたある日、あいつは・・・あの人形は、俺に言った。

『私、近いうちにここからいなくなってしまうの』

「・・・え？」

『私はとても古くて珍しいから、ここにいてはいけないようなの。』

「・・・そうか。」

『貴方が羨ましいわ。私、とうとうサムとお別れなんだもの・・・。  
貴方の若さが羨ましいわ。』

「馬鹿だな、俺も同じ位古いぜ。」

『ふふ、でも、私程じゃないでしょう？』

「・・・ん、ま、まあな？」

あいつはクスクス笑うと、それきり口を聞かなかった。

・・・その日の夜に聞こえたのは、あいつの泣き声だったのかな。

そしてあいつは、とうとう昨日連れていかれてしまった。最後の最後まで、サム、と、あの青年の名を呼んでいた。

そして、今日は水曜日。

俺の横には、汗を拭いながら本棚を拭いているサムがいる。

俺の事を見たサムは、呟いた。

「・・・いなくなってしまったのか。」

・・・あいつに聞かせてやりたい。おいかぐや姫、サムはちゃんとお前を見てたぜ。

よかったな、おい。

・・・ああ、今俺はあいつを『かぐや姫』と呼んでいる。

昔、俺の主人だった、この国にしては珍しい、黒い髪のじいさんが、同じ黒い髪を持つ少女に話していたおとぎ話。

その話にでてくるお姫様が、あいつの境遇にそっくりだからだ。

・・・お、サムの奴、今日はやけに念入りに俺を拭くじゃないか。  
どうかしたのか？

・・・あ。

忘れてた。

今日は俺が『びじゅつかん』って所に行く日だった。  
ま、俺はかぐや姫と違って愛する人もいないからな。

さて、次はどんな主人が待ってるのかな。

## （後書き）

読んで頂き、ありがとうございます。

実はこの話、最初ホラーにするつもりだったんです。

でも、途中で考えが変わり、今のような話になりました。

感想、誤字脱字の指摘などを頂けたらと思います

ありがとうございます。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3621b/>

---

家具屋姫

2010年10月28日07時18分発行